

「子の権現」 ハイキング (2021/6/22)

杉山

6月下旬は梅雨のシーズンで、天気予報はどんどん変わります。5日前の今日の天気はくもり時々雨でした。2日前から雨が消え、くもりの予報に変わった。今朝5時30分に起きて、すぐに窓を開け、空を見たらくもり空だった。雨は最悪だが、快晴でもうれしくない。電車に乗って西吾野まで行く途中で、空が暗くなる時があり、一瞬雨具の心配をした。現地に着く頃は空が明るくなり、気分は高まりました。先に到着した一人が駅ロータリーに見え、我々7名を迎えてくれました。

準備体操をし、トイレを済ませ、出発。初めは車が通る国道を歩き、高麗川を渡って小床集落まで舗装道路だ。ここから土の山道である。尾根の所に文字が刻まれ、木立に寄り掛かった100 kgを超えるような石を見ながら、昔の人はこんな重い石をよく運んだものだと、また軽石の話になりどうして空洞ができるのだろうか、次は墓石の話になり、国産の石は値段が高く、中国産が安い、北欧産に高いものがある。また、墓地は必要だ、いや共同墓地が子供に心配をかけなくていいなどと話題が付きませんでした。

歩きながら話をしていると子の権現入口に到着。門をくぐると2体の大きな仁王像が構えており、威圧感を感じる。本坊を通して本堂でお参りをした。そばには大きな黄金色したワラジや夫婦下駄などがあり、足腰守護の神仏として信仰されている。見晴らし台や鐘撞き堂がある丘の上でランチタイムである。お裾分けが回ってきて、熱いコーヒーが飲めることに感謝です。保温性の良いポットに多量の熱湯が入っている。山の上で温かさを感じるひと時でした。

午後は来た道を少し戻り、関東ふれあいの道に出た。道中には一部の葉が白化したマタタビが点在し、白色に見える葉も元は緑色している、またマタタビと猫についての説明が聞こえてきた。皆さん博識で聞いていて飽きません。浅見茶屋が見えた。地図やガイドブックに掲載されているものとされていないものがあり、営業中の看板にびっくりしました。誰かがこの店はしばらく休店していたとのこと。東郷公園に着くと、黄色く色づいた梅が落ちていた。女性たちがジャムを作ると言って、色と形の良いものを拾い集めていたので、男性も応援し、たちまち袋がいっぱいになった。

ここから吾野駅までは徒歩20分くらいだ。例年ではこの時期は気温と湿度が高く、駅までの最後がきつい。今回はくもり空とちょっと涼しい風があり、皆元気に笑顔で駅に戻りました。



「子の権現」のワラジ前にて



仁王像



夫婦下駄





一部の葉が白化したマタタビ



木枝に吊り下がるサルオガセ(猿尾枷)



セイヨウキンシバイ (西洋金糸梅)



ユキノシタ (雪の下)